

「昔見た風景」

鳥取県 ほがんじ 補岩寺住職 西尾修道 にしおしゅうどう

十年ほど前までは、私が境内の掃除をしていると、お参りに来られたお檀家さんが、「お寺を綺麗にしてください、有難うございます」と、わがことのように喜んで声をかけてくださっていました。その度に、私は「今ここに、お寺が成り立っていること」を実感していました。しかし、ここ数年、コロナ禍もあいまって、お寺を取り巻く状況も大きく変わってきました。お檀家さんもご高齢になり「施設に入ることになりました」とご挨拶に来られたり、心寂しく思う事が増えてきました。

そんな昨今ですが、ふと思いついたことがあります。昔、知り合いの仏師さんの勧めで、ある神社を訪ねた時の事です。朝早く、山奥にあるその神社にお参りした事が今でも鮮やかに心に刻まれています。

参道の両脇を杉林が囲む、社務所もない小さな神社でしたが、本殿に至るまでの白い砂利が綺麗に掃き清められ、落ち葉一つない光景が目の前に広がっていました。風の一吹きで落ち葉だらけの自然に帰る静謐で張り詰めた緊張の中、「掃除という行い」の尊さを感じました。訪れる人も少ない山奥の小さな神社で、黙々と掃除を続ける「聖域を、聖域たらしめている」方を探しましたが、人の気配はありませんでした。

綺麗に掃き清められた参道は、沈黙のままに目の前に広がっていました。沈黙の参道から聞こえてくるものを、人も沈黙のままに聞き、参道に語りかけるのです。そして、人は沈黙のままに行動するのです。私も、日々の勤めを、黙々と行っていきたく思ったことでした。